別紙３

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
分担研究報告書
最新の知見を踏まえた医療機関における院内感染対策の質向上のための研究

研究代表者　　四柳　宏　　東京大学医科学研究所先端医療研究センター感染症分野教授

研究要旨　本研究は医療機関の立地環境を考慮した動線、換気、ゾーニングなどへの対応を進め、一般医療機関を考慮した施設内感染対策ガイドラインを策定することを目標とする。令和６年度は研究計画の詳細について研究者での話し合いを行った上で、研究テーマ毎に最新の公開情報などを共有した。具体的には（１）近年流行した疾患に対する国内外の感染対策の対応の総括、（２）新型コロナウイルス感染症を中心に国内外から出された各種ガイドライン、感染制御に関する文献の調査、（３）換気・医療環境の状況に関する調査を主な目標とした。来年には前身の研究班のガイドラインが公開される予定であり、その内容更新などを行う予定である。

共同研究者
吉田正樹（東京慈恵会医科大学教授）三鴨廣繁（愛知医科大学教授）
松本哲哉（国際医療福祉大学教授）森兼啓太（山形大学病院教授）
大毛宏喜（広島大学教授）栁原克紀（長崎大学教授）泉川公一（長崎大学教授）

A. 研究目的

令和３年度から５年度まで厚生労働科学研究「医療機関における院内感染対策の質向上のための研究」が行われ、近日中に医療機関向けの感染対策のガイドラインの公開が予定されている。本研究は医療機関の立地環境を考慮した動線、換気、ゾーニングなどへの対応を進め、一般医療機関を考慮した施設内感染対策ガイドラインを策定することを目標とする。

B. 研究方法

令和６年度は研究計画の詳細について研究者での話し合いを行った上で、研究テーマ毎に最新の公開情報などを共有した。具体的には（１）近年流行した疾患に対する国内外の感染対策の対応の総括、（２）新型コロナウイルス感染症を中心に国内外から出された各種ガイドライン、感染制御に関する文献の調査、（３）換気・医療環境の状況に関する調査を主な目標とした。

（倫理面への配慮）

本研究に関しては現時点で該当するものはない。

C. 研究結果

（１）に関しては新型コロナウイルス感染症の診療の指針を現在作成中である。①感染対策の基本的考え方、②外来患者への対応、③入院患者への対応、④職員の健康管理に関して現在執筆が進行している。

（２）に関しては WHO から 2023 年 12 月に出されたガイドラインが代表的なものであり、解説もいくつか出されている。現在（３）の作成にあたり参考にしている。また、日本環境感染学会では三鴨分担研究者を中心に、医療従事者のためのワクチンガイドラインを作成しているが、その第４版が刊行された。

（３）に関してはどのように検討すべきか班員の間で何回か話し合いの機会を持っており、2025 年以降に活動を開始する予定である。。

D. 考察

前述の WHO ガイドラインでは、COVID-

19対策として強く推奨されることの筆頭に“一般病棟および外来では患者一人あたり一秒60リットルの換気”と強く推奨されている。この推奨が本邦で実際に可能なのか、適正なのかを検討する必要があり、次年度以降の課題である。

来年には前身の研究班のガイドラインが公開される予定であり、その内容更新などを行う予定である。。

E. 結論

新型コロナウイルス感染症の診療指針の改訂に並行して感染対策に関してもブラッシュアップを行った。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

１．論文発表

該当なし

２．学会発表

該当なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

１．特許取得

該当なし

２．実用新案登録

該当なし

３．その他

該当なし